

(4) 気候変動講演会 2017～弱者から考える地球温暖化～

大阪管区気象台・近畿地方環境事務所主催のイベントで、「これまでの観測事実と将来予測」、「変動する気候、激甚化する気象」及び「野生生物から見た地球温暖化」の3点について講演が行われました。

【日時】2017年12月2日(土)13時30分～15時30分

【場所】ドーンセンター パフォーマンススペース

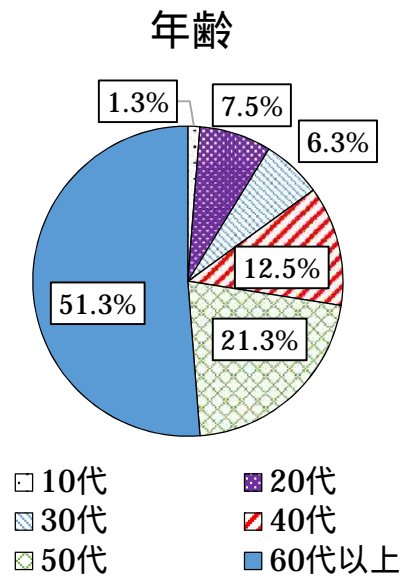
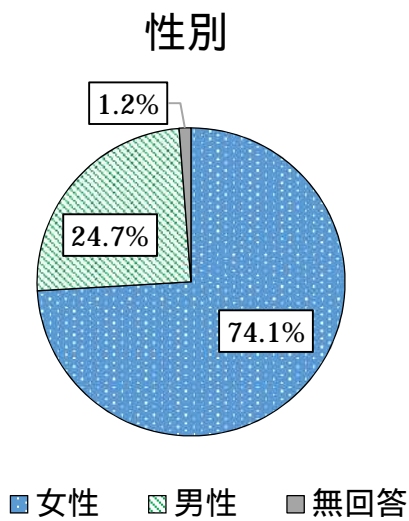
【参加者数】120名程度

【実施内容】

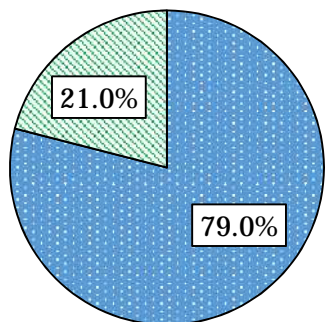
- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕の骨子を配布
- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕パネル展示
- ・生物多様性に関するアンケートの実施



< アンケート結果 (回答総数: 81件) >

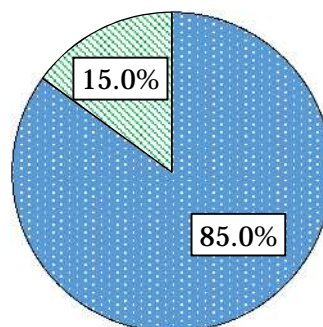


問1 . 生物多様性という言葉の意味を知っていますか？



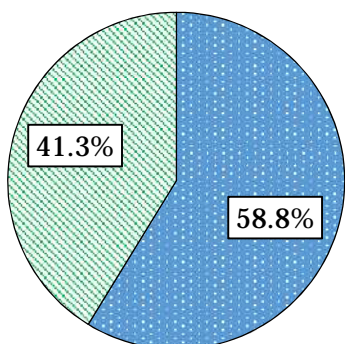
■ はい □ いいえ

問2 . 生活の中で生き物のめぐみを感じますか？



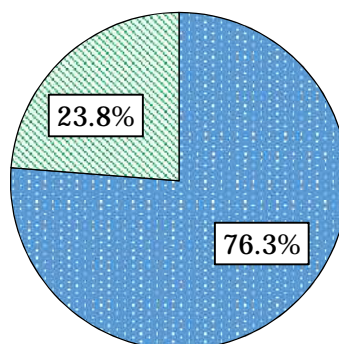
■ はい □ いいえ

問3 . 最近(概ね1か月)、生き物とふれあいましたか？



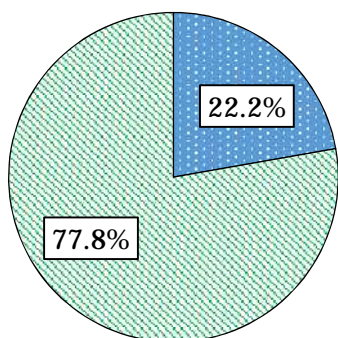
■ はい □ いいえ

問4 . なんばパークスなどビルの屋上で緑化していることを知っていますか？



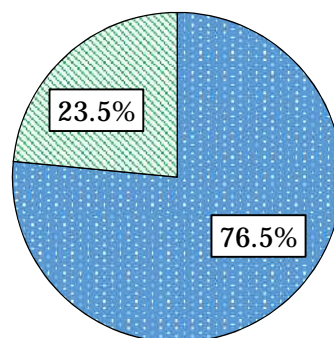
■ はい □ いいえ

問5 . 緑化している屋上で、絶滅の危機にある鳥に出会えることを知っていますか？



■ はい □ いいえ

問6 . タコ焼きのタコの大半は輸入であることを知っていますか？



■ はい □ いいえ

(5) エネマネハウス 2017

エネマネハウスは、「学生が考える実現可能な一次エネルギー消費量 0 の家」として、大学と民間企業などの連携により、先進的な技術や新たな住まい方を提案する Z E H のモデル住宅を実際に建築し、住宅の環境・エネルギー性能の測定・実証や、展示を通じた普及啓発を行うプロジェクトです。

【日時】2017年12月2日(土)～12月17日(日) 一般公開時間 10時～16時30分

2日(土)と16日(土)は13時30分～16時30分

17日(日)は10時～14時

【場所】大阪市うめきたサザンパーク(うめきた2期B区域)

【実施内容】

- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕の骨子を配布
- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕パネル展示



4 . 大阪市内の生物相

(1) 大阪市内における保護上注目すべき生き物

本戦略の策定にあたり、大阪市内に生息・生育する生き物に関する情報について、各文献・標本などの資料を用いて、収集と整理を行いました。各種調査によると、1950年頃から大阪市内で生息・生育記録がある生き物は合計4,502種となります。このうち、大阪市内で現在生息・生育しているのは合計4,459種であると考えられます。また、大阪市内にかつて生息・生育していたものの、最後に確認されてから30年程経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、大阪市内で既に絶滅したと考えられるものは43種となります。

これらのうち、大阪市立自然史博物館が、大阪生物多様性保全ネットワークのレッドデータブック部会の枠組みのもと、各文献・標本などの資料をもとに検討をおこない、環境省のレッドリストの選定基準を参考として、大阪市内での生息・生育数が少ない556種と、今回絶滅と判断した種のうち在来種である34種を「保護上注目すべき生き物」として分類しました。

大阪市内における保護上注目すべき生き物（総括表）

No.	分類群	市内で生息・生育記録がある生き物					
		生息・生育していると考えられる生き物	絶滅したと考えられる生き物（注1）				
			保護上注目すべき生き物	保護上注目すべき生き物	保護上注目すべき生き物	大阪市内の分布は人為によると思われるもの	
1	ほ乳類	16	13			6	3
2	鳥類	324	319	61	5	0	5
3	爬虫類	11	9	6	2	2	0
4	両生類	7	4	2	3（注2）	3（注2）	0
5	汽水・淡水魚類	120	120	32	0	0	0
6	昆虫類	1,768	1,756	249	12	12	0
7	クモ類	100	100	6	0	0	0
8	陸産貝類	27	27	（注3）	（注3）	（注3）	（注3）
9	淡水産貝類	22	21	9	1	1	0
10	海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	231	226	25	5	5	0
11	その他淡水産無脊椎動物	10	10	（注3）	（注3）	（注3）	（注3）
12	維管束植物	1,488	1,476	155	12	10	2（注4）
13	コケ植物	96	96	5	0	0	0
14	菌類	282	282	（注3）	（注3）	（注3）	（注3）
	合計	4,502	4,459	556	43	34	9

注1：大阪市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、大阪市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

注2：近年一部地域で確認されたトノサマガエルは、人為的に持ち込まれたものであり、かつては大阪市内に生息していたものの、現在はすでに絶滅したと判断し、「保護上注目すべき生き物」として分類した。

注3：大阪市内の生息情報が少なく、データ収集と整理はできないため、生息状況の概要を示す。

注4：園芸的な植栽による維管束植物は、「保護上注目すべき生き物」として分類していない。

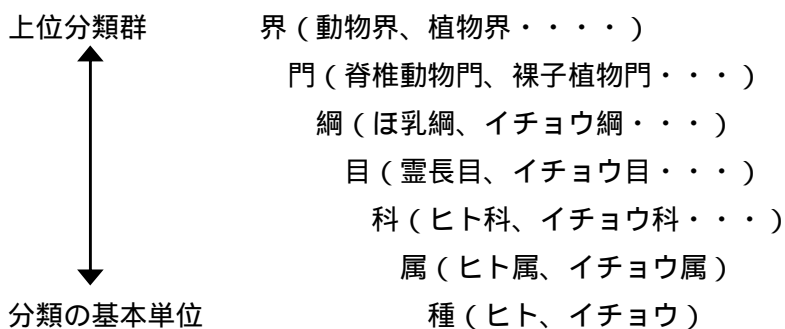
生物種の名称・分類などについて

生物種の名称

本戦略では、わかりやすさの観点から「和名」(生き物につけられた日本特有の日本語の名称で、一般的に使われているもの)を使用しています。

分類群

生き物は、大方次の7段階に分類されています。(以下のカッコ内の例はヒトとイチョウ)



大阪市内の「保護上注目すべき生き物」の生息・生育環境

1	公園及び近年つくられた緑地
2	社寺林など古くから残る林
3	水田
4	池・堀・運河・中小河川
5	大河川(淀川と大和川、ただし汽水域・感潮域の水辺を除く)
6	干潟、汽水域、感潮域のヨシ原
7	埋立地の裸地・草地など
8	その他

参考(「大阪府レッドリスト2014」のカテゴリー及び定義)

分類群ごとのリストには、大阪府内における生息・生育状況の参考情報として、大阪府レッドリスト2014のカテゴリーを掲載しています。

カテゴリー	定義
絶滅	大阪府内ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧 類	大阪府内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧 類	大阪府内において絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	大阪府内において存続基盤が脆弱な種
情報不足	評価するだけの情報が不足している種(情報が集まれば絶滅危惧や準絶滅危惧に分類される可能性が高い種)

分類群ごとのリスト

ほ乳類

大阪市内では 16 種の哺乳類が確認されています。このうち、外来種は 9 種、在来種は 7 種で、この在来種のすべてを「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この 7 種のうち、大阪市内ですでに絶滅したと考えられているのはニホンイタチの 1 種で、現在生息している在来種の 6 種のうち、アブラコウモリは大阪市内に広く生息していますが、それ以外の 5 種（コウベモグラ、キツネ、タヌキ、カヤネズミ、アカネズミ）は、主に淀川や大和川の河川敷に生息していません。淀川のヨシ原などの草地は、こうした在来種にとって重要な生息地となっています。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッドリスト2014
コウベモグラ	食虫目	モグラ科		5	
アブラコウモリ	翼手目	ヒナコウモリ科		8 (市全域)	
キツネ	食肉目	イヌ科		5	絶滅危惧Ⅰ類
タヌキ	食肉目	イヌ科		1・2・5・8 (市街地)	
ニホンイタチ	食肉目	イタチ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧Ⅱ類
カヤネズミ	齧歯目	ネズミ科		5	準絶滅危惧
アカネズミ	齧歯目	ネズミ科		5・7	

注1：P94の参照

注2：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ですでに絶滅したと考えられる種。

鳥類

大阪市内では 324 種の鳥類が確認されています。このうち、外来種は 13 種、在来種は 311 種で、この在来種のうち 61 種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この 61 種のうち、大阪市内で繁殖が記録されているのは 42 種で、うち 24 種は市街地で繁殖していますが、残りの 18 種は河川敷や埋立地の裸地や草地、水辺などで繁殖しています。野鳥園臨港緑地（もと南港野鳥園）や舞洲、夢洲は、現在多様な鳥類の生息地となっています。こうした場所は、チュウヒ、ヒバリ、セッカ、オオヨシキリなど大阪市内で繁殖する鳥に限らず、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、フクロウ類、チュウヒ類、ハヤブサ類など、数多くの鳥類の重要な生息地にもなっています。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上注目すべき生き物(注1)	生息・生育環境 (注2)	(参考)大阪府レッドリスト2014
ウスラ	キジ目	キジ科	○	5	絶滅危惧 類
キジ	キジ目	キジ科	○	5	-
ウミアイサ	カモ目	カモ科	-	-	準絶滅危惧
カイツブリ	カイツブリ目	カイツブリ科	○	4・5	-
ヨシゴイ	ペリカン目	サギ科	○	5・6	絶滅危惧 類
ミソゴイ	ペリカン目	サギ科	-	-	絶滅危惧 類
ゴイサギ	ペリカン目	サギ科	○	1・4・5	-
ササゴイ	ペリカン目	サギ科	○	1・5	-
アマサギ	ペリカン目	サギ科	-	-	絶滅危惧 類
コサギ	ペリカン目	サギ科	○	1・4・5・6	-
クイナ	ツル目	クイナ科	○	5・6	準絶滅危惧
ヒクイナ	ツル目	クイナ科	○	5・6	絶滅危惧 類
バン	ツル目	クイナ科	○	4・5・6	-
ツツドリ	カッコウ目	カッコウ科	-	-	準絶滅危惧
ヨタカ	ヨタカ目	ヨタカ科	-	-	絶滅危惧 類
タゲリ	チドリ目	チドリ科	-	-	準絶滅危惧
ケリ	チドリ目	チドリ科	○	3	準絶滅危惧

ムナグロ	チドリ目	チドリ科	○	5・6	絶滅危惧 類
ダイゼン	チドリ目	チドリ科	○	6	絶滅危惧 類
イカルチドリ	チドリ目	チドリ科	-	-	絶滅危惧 類
コチドリ	チドリ目	チドリ科	○	5・6・7	準絶滅危惧
シロチドリ	チドリ目	チドリ科	○	6・7	絶滅危惧 類
メダイチドリ	チドリ目	チドリ科	○	6	絶滅危惧 類
オオメダイチドリ	チドリ目	チドリ科	-	-	準絶滅危惧
オオジシギ	チドリ目	シギ科	○	5・6	準絶滅危惧
チュウジシギ	チドリ目	シギ科	○	5・6	準絶滅危惧
タシギ	チドリ目	シギ科	○	5・6	準絶滅危惧
オグロシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
オオソリハシシギ	チドリ目	シギ科	○	6	絶滅危惧 類
チュウシヤクシギ	チドリ目	シギ科	○	5・6	準絶滅危惧
ダイシヤクシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
ホウロクシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
ツルシギ	チドリ目	シギ科	○	5・6	絶滅危惧 類
アカアシシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
コアアシシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
アアシシギ	チドリ目	シギ科	○	6	絶滅危惧 類
クサシギ	チドリ目	シギ科	-	-	準絶滅危惧
タカフシギ	チドリ目	シギ科	○	5・6	絶滅危惧 類
キアシシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
ソリハシシギ	チドリ目	シギ科	○	6	絶滅危惧 類
キョウジョシギ	チドリ目	シギ科	○	6	絶滅危惧 類
オバシギ	チドリ目	シギ科	○	6	絶滅危惧 類
イソシギ	チドリ目	シギ科	-	-	準絶滅危惧
コオバシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
ミコビシギ	チドリ目	シギ科	-	-	準絶滅危惧
トウネン	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
オジロトウネン	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
ヒバリシギ	チドリ目	シギ科	○	6	絶滅危惧 類
ウズラシギ	チドリ目	シギ科	○	6	絶滅危惧 類
サルハマシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
ハマシギ	チドリ目	シギ科	○	5・6	-
キリアイ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
エリマキシギ	チドリ目	シギ科	○	6	準絶滅危惧
アカエリヒレアシシギ	チドリ目	シギ科	○	6	-
タマシギ	チドリ目	タマシギ科	-	-	絶滅危惧 類
ツバメチドリ	チドリ目	ツバメチドリ科	-	-	絶滅危惧 類
ズグロカモメ	チドリ目	カモメ科	-	-	準絶滅危惧
コアシサシ	チドリ目	カモメ科	○	6・7	絶滅危惧 類
ベニアジサシ	チドリ目	カモメ科	○	7	準絶滅危惧
ハチクマ	タカ目	タカ科	-	-	絶滅危惧 類
チュウヒ	タカ目	タカ科	○	5・6・7	絶滅危惧 類
ハイロチュウヒ	タカ目	タカ科	○	5・6・7	準絶滅危惧
ツミ	タカ目	タカ科	-	-	絶滅危惧 類
オオタカ	タカ目	タカ科	-	-	絶滅危惧 類
サシバ	タカ目	タカ科	-	-	絶滅危惧 類
ノスリ	タカ目	タカ科	○	5・6・7	準絶滅危惧
フクロウ	フクロウ目	フクロウ科	-	-	準絶滅危惧
アオバズク	フクロウ目	フクロウ科	-	-	絶滅危惧 類
トラフズク	フクロウ目	フクロウ科	○	5・6・7	絶滅危惧 類
コミミズク	フクロウ目	フクロウ科	○	5・6・7	絶滅危惧 類
オオアカゲラ	キツツキ目	キツツキ科	-	-	準絶滅危惧
コチョウゲンボウ	ハヤブサ目	ハヤブサ科	○	5・6・7	準絶滅危惧
ハヤブサ	ハヤブサ目	ハヤブサ科	○	5・7	-
サンショウクイ	スズメ目	サンショウクイ科	-	-	絶滅危惧 類
モズ	スズメ目	モズ科	○	1・5	-
ツリスガラ	スズメ目	ツリスガラ科	○	5・6・7	-
ヒバリ	スズメ目	ヒバリ科	○	5・7	準絶滅危惧
コシアカツバメ	スズメ目	ツバメ科	-	-	準絶滅危惧
センダイムシクイ	スズメ目	ムシクイ科	-	-	準絶滅危惧

オオヨシキリ	スズメ目	ヨシキリ科	○	5・6・7	準絶滅危惧
セッカ	スズメ目	セッカ科	○	5・6・7	準絶滅危惧
トラツグミ	スズメ目	ヒタキ科	-	-	準絶滅危惧
コサメビタキ	スズメ目	ヒタキ科	-	-	絶滅危惧 類
セグロセキレイ	スズメ目	セキレイ科	○	1・3・4・5	-
ベニマシコ	スズメ目	アトリ科	○	5・6・7	-
ホオアカ	スズメ目	ホオジロ科	○	5	準絶滅危惧
カシラダカ	スズメ目	ホオジロ科	-	-	準絶滅危惧
ミヤマホオジロ	スズメ目	ホオジロ科	-	-	準絶滅危惧
オオジュリン	スズメ目	ホオジロ科	○	5・6・7	準絶滅危惧

注1：大阪市内で確認されているが、大阪市内では繁殖していない、あるいは不定期に記録されるに過ぎず大阪市内での保全の必要がないと判断した種は、「保護上注目すべき生き物」として分類していない。

注2：P94の 参照

爬虫類

大阪市内では11種の爬虫類が確認されています。このうち、外来種は1種、在来種は10種で、この在来種のうち8種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この8種のうち、家屋に生息するアオダイショウ以外の生息地は主に水辺周辺や草地などです。大阪市内ではこのような自然環境は減少しており、公園などで細々と生き延びています。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッド リスト2014
ニホンイシガメ	カメ目	イシガメ科	○	4・5	準絶滅危惧
ニホンスッポン	カメ目	スッポン科	○	4・5	-
ニホントカゲ	有鱗目	トカゲ科	○	1・2	-
ニホンカナヘビ	有鱗目	カナヘビ科	○	1・2	-
アオダイショウ	有鱗目	ナミヘビ科	○	1・2・8(市街地)	-
シマヘビ	有鱗目	ナミヘビ科	○	1	-
ヒバカリ	有鱗目	ナミヘビ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧 類
ニホンマムシ	有鱗目	クサリヘビ科	○(絶滅(注2))	-	-

注1：P94の 参照

注2：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

両生類

大阪市内では7種の両生類が確認されています。このうち、外来種は2種、在来種は5種で、この在来種のすべてを「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この5種のうち、かつて大阪市内の水田周辺に生息していたニホンアカガエル、ダルマガエル、トノサマガエルの3種は大阪市内ではすでに絶滅しており、現在生息しているのは、ニホンアマガエルとヌマガエルのみです。水田に生息するヌマガエルは、大阪市内では水田が減少しているため、ほとんど見られなくなっています。ニホンアマガエルは、水田以外の場所でも生息することができますが、繁殖には水辺環境が必要で、水辺環境の減少によって、姿が見られなくなっています。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上注目 すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッド リスト2014
ニホンアマガエル	無尾目	アマガエル科	○	3・4	-
ニホンアカガエル	無尾目	アカガエル科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧 類
ツチガエル	無尾目	アカガエル科	- (注3)	-	準絶滅危惧
ダルマガエル	無尾目	アカガエル科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧 類
トノサマガエル	無尾目	アカガエル科	○(絶滅(注2・4))	-	準絶滅危惧
ヌマガエル	無尾目	ヌマガエル科	○	4	-

注1：P94の 参照

注2：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

注3：一部地域で生息しているツチガエルは、人為的に持ち込まれたものであり、市内にはもともと生息していないと考えられるため、「保護上注目すべき生き物」として分類していない。

注4：近年一部地域で確認されたトノサマガエルは、人為的に持ち込まれたものであり、かつては大阪市内に生息していたものの、現在はすでに絶滅したと判断し、「保護上注目すべき生き物」として分類した。

汽水・淡水魚類

大阪市内では120種の汽水・淡水魚類が確認されています。このうち、外来種は24種、在来種は96種で、この在来種のうち32種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この32種のうち25種が純淡水魚で、淀川水系を中心に見られていたイチモンジタナゴ、カワバタモロコ、ツチフキ、デメモロコ、アユモドキは近年生息が確認されていません。また、生息域外保全によって野生復帰したイタセンパラをはじめとするタナゴ類数種は、淀川ワンド群のわずかな水域に分布が限られており、外来種の継続的な駆除など、人の管理によって個体群が維持されている状況です。琵琶湖淀川水系の固有種であるヨドゼゼラやワタカについても個体数が減少しており、淀川ワンド群はこれらの種にとっても重要な生息域となっています。ミナミメダカは、かつては市内各地の水域に生息していましたが、水田の減少や河川の護岸化、外来種であるカダヤシの分布拡大などにより生息域が激減しています。在来魚の保全上特に重要な場所として、淡水域では淀川ワンド群、汽水域・海域では十三干潟から矢倉海岸や大和川河口干潟などの淀川・大和川汽水域があげられます。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッド リスト2014
ニホンウナギ	ウナギ目	ウナギ科	○	4(中小河川のみ)・5・6(中小河川を含む)	絶滅危惧 類
ゲンゴロウブナ	コイ目	コイ科	○	4(中小河川のみ)・5・6(中小河川を含む)	-
ヤリタナゴ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
イチモンジタナゴ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ、ただし1990年代を最後に記録なし)	絶滅危惧 類
イタセンパラ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
シロヒレタビラ	コイ目	コイ科	○	4(中小河川のみ)・5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
ワタカ	コイ目	コイ科	○	4(中小河川のみ)・5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
カワバタモロコ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ、ただし1980年代を最後に記録なし)	絶滅危惧 類
ハス	コイ目	コイ科	○	4(運河・中小河川のみ)・5	準絶滅危惧
ウグイ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ)・6(淀川のみ)	情報不足
カワヒガイ	コイ目	コイ科	○	4(中小河川のみ)・5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
ムギツク	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
タモロコ	コイ目	コイ科	○	4(中小河川のみ)・5	準絶滅危惧
ゼゼラ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
ヨドゼゼラ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
ツチフキ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ、ただし1980年代を最後に記録なし)	絶滅危惧 類
デメモロコ	コイ目	コイ科	○	5(淀川のみ、ただし1980年代を最後に記録なし)	情報不足
アユモドキ	コイ目	ドジョウ科	○	5(淀川のみ、ただし1990年代を最後に記録なし)	絶滅危惧 類
ドジョウ	コイ目	ドジョウ科	○	4(池のみ)・5	絶滅危惧 類
ヨドコガタスジシマドジョウ	コイ目	ドジョウ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
チュウガタスジシマドジョウ	コイ目	ドジョウ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
ギギ	ナマズ目	ギギ科	○	4(中小河川のみ)・5	準絶滅危惧
ビウコオオナマズ	ナマズ目	ナマズ科	○	5(淀川のみ、ただし1990年代を最後に記録なし)	準絶滅危惧
ナマズ	ナマズ目	ナマズ科	○	4(中小河川のみ)・5	準絶滅危惧
アユ	サケ目	アユ科	○	4(運河・中小河川のみ)・5・6(中小河川を含む)	準絶滅危惧
シラウオ	サケ目	シラウオ科	○	6(淀川・神崎川のみ、ただし1990年代を最後に記録なし)	情報不足
サツキマス・アマゴ	サケ目	サケ科	○	5(淀川のみ)・6(淀川のみ)	情報不足
ミナミメダカ	ダツ目	メダカ科	○	4(池・中小河川のみ)・5・6	絶滅危惧 類
ドンコ	スズキ目	ドンコ科	○	5	-
ゴクラクハゼ	スズキ目	ハゼ科	○	4(運河・中小河川のみ)・5・6(中小河川を含む)	-
シマヒレヨシノボリ	スズキ目	ハゼ科	○	4(池のみ)・5	準絶滅危惧

ウキゴリ	スズキ目	ハゼ科	○	4 (中小河川のみ)・5・6 (中小河川を含む)	準絶滅危惧
------	------	-----	---	--------------------------	-------

：大阪市内における希少性・絶滅の危険性を判断するための情報が不足している種
注1：P94の参照

昆虫

大阪市内では1,768種の昆虫が確認されています。このうち、外来種は88種、在来種は1,680種で、この在来種のうち261種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この261種のうち、水辺環境の減少などにより、すでに絶滅したと考えられているのはマルコガタノゲンゴロウやコバンムシなどの12種です。現在生息している種についても、その多くで個体数が減少しており、水生昆虫でその傾向が顕著であると言えます。淀川ワンド群はアメンボ類など水生昆虫の重要な生息地であり、特にエサキアメンボは市内ではワンド群での記録しかありませんが、近年個体数は減少していると考えられます。淀川汽水域のヨシ原に生息するヒヌマイトトンボは、一時期絶滅が心配されましたが、個体数は少ないものの、近年再確認されました。

カミキリムシ類やクワガタムシ類など樹木や朽木に依存する昆虫は、市街化に伴い林が失われていく中、社寺林や河川敷に残った林などで細々と生息していましたが、林の縮小・乾燥化により個体数はさらに減少しています。また、ツシマヒメサビキコリやオオサカスジコガネなどは、河川周辺の草地や砂地の減少により個体数が減少しました。かつて非常に多く見られたドウガネブイブイも現在では非常に少なくなっています。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッド リスト2014
ホソミイトトンボ	トンボ目	イトトンボ科	○	4	準絶滅危惧
キイトトンボ	トンボ目	イトトンボ科	○	4	準絶滅危惧
ベニイトトンボ	トンボ目	イトトンボ科	○	4	準絶滅危惧
ヒヌマイトトンボ	トンボ目	イトトンボ科	○	6	絶滅危惧 類
モートンイトトンボ	トンボ目	イトトンボ科	○	4	絶滅危惧 類
セスジイトトンボ	トンボ目	イトトンボ科	○	4	準絶滅危惧
ムスジイトトンボ	トンボ目	イトトンボ科	○	4	-
オオイトトンボ	トンボ目	イトトンボ科	○	4	絶滅危惧 類
モノサシトンボ	トンボ目	モノサシトンボ科	○	4・5	-
コバネアオイトトンボ	トンボ目	アオイトトンボ科	○(絶滅(注2))	4・5	絶滅危惧 類
オツネトンボ	トンボ目	アオイトトンボ科	○	4	準絶滅危惧
ハグロトンボ	トンボ目	カワトンボ科	○	5	-
アオハダトンボ	トンボ目	カワトンボ科	○(絶滅(注2))	5	絶滅危惧 類
ミヤマサナエ	トンボ目	サナエトンボ科	○	5	絶滅危惧 類
ホンサナエ	トンボ目	サナエトンボ科	○	5	絶滅危惧 類
オナガサナエ	トンボ目	サナエトンボ科	○	5	-
コオニヤンマ	トンボ目	サナエトンボ科	○	4・5	-
ウチワヤンマ	トンボ目	サナエトンボ科	○	4・5	準絶滅危惧
オオサカサナエ	トンボ目	サナエトンボ科	○	5	絶滅危惧 類
ナゴヤサナエ	トンボ目	サナエトンボ科	○	5	情報不足
メガネサナエ	トンボ目	サナエトンボ科	○	5	絶滅危惧 類
フタスジサナエ	トンボ目	サナエトンボ科	○	4	準絶滅危惧
オグマサナエ	トンボ目	サナエトンボ科	○	4	絶滅危惧 類
ネアカヨシヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	○	4	絶滅危惧 類
アオヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	○	4	絶滅危惧 類
マルタンヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	○	4	準絶滅危惧
クロスジギンヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	○	4	-
カトリヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	○	4・5	準絶滅危惧
オニヤンマ	トンボ目	オニヤンマ科	○	4・5	-
トラフトンボ	トンボ目	エゾトンボ科	○	4	準絶滅危惧
コヤマトンボ	トンボ目	ヤマトンボ科	○	4・5	-

コフキトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	準絶滅危惧
ベッコウトンボ	トンボ目	トンボ科	○(絶滅(注2))	4	絶滅
ヨツボシトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	準絶滅危惧
ハラヒロトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	-
シオヤトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	-
チョウトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	-
コノシメトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	-
キトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	絶滅危惧 類
ナツアカネ	トンボ目	トンボ科	○	3・4	準絶滅危惧
マユタテアカネ	トンボ目	トンボ科	○	4	-
アキアカネ	トンボ目	トンボ科	○	3・4	準絶滅危惧
ナニワトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	絶滅危惧 類
ノシメトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	準絶滅危惧
マイコアカネ	トンボ目	トンボ科	○	4	準絶滅危惧
ヒメアカネ	トンボ目	トンボ科	○	4	準絶滅危惧
リヌアカネ	トンボ目	トンボ科	○	4	-
タイリクアカネ	トンボ目	トンボ科	○	4	-
オオキトンボ	トンボ目	トンボ科	○	4	絶滅危惧 類
オオゴキブリ	ゴキブリ目	オオゴキブリ科	○	2	-
キョウトゴキブリ	ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	○	2	情報不足
ツチゴキブリ	ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	○	5	-
ヤマトゴキブリ	ゴキブリ目	ゴキブリ科	○	2・5	-
スズムシ	バッタ目	マツムシ科	○	5	-
マツムシ	バッタ目	マツムシ科	○	5	-
キンヒバリ	バッタ目	ヒバリモドキ科	○	5	-
ケラ	バッタ目	ケラ科	○	1・5	-
ニセハネナガヒシバッタ	バッタ目	ヒシバッタ科	○	5	-
ヒメヒシバッタ	バッタ目	ヒシバッタ科	○	5	-
クツワムシ	バッタ目	クツワムシ科	○	5	準絶滅危惧
ヒナバッタ	バッタ目	バッタ科	○	5	-
クルマバッタ	バッタ目	バッタ科	○	5	-
ハネナガイナゴ	バッタ目	バッタ科	○	3・5	-
ナナフシモドキ	ナナフシ目	ナナフシモドキ科	○	2	-
コヒゲジロハサミムシ	ハサミムシ目	ハサミムシ科	○	5	絶滅危惧 類
ムモンミズカメムシ	カメムシ目	ミズカメムシ科	○	4	準絶滅危惧
イトアメンボ	カメムシ目	イトアメンボ科	○	3・4	絶滅危惧 類
オオアメンボ	カメムシ目	アメンボ科	○	4	-
ヤスマツアメンボ	カメムシ目	アメンボ科	○	4	準絶滅危惧
エサキアメンボ	カメムシ目	アメンボ科	○	5(ワンドに限られる)	絶滅危惧 類
コバンムシ	カメムシ目	コバンムシ科	○(絶滅(注2))	4	絶滅危惧 類
コオイムシ	カメムシ目	コオイムシ科	○	3・4	準絶滅危惧
タガメ	カメムシ目	コオイムシ科	○(絶滅(注2))	4	絶滅危惧 類
タイコウチ	カメムシ目	タイコウチ科	○	4	-
ミズカマキリ	カメムシ目	タイコウチ科	○	4	準絶滅危惧
ヒメミズカマキリ	カメムシ目	タイコウチ科	○	4	準絶滅危惧
ミゾナシミズムシ	カメムシ目	ミズムシ科	○	4	-
ホッケミズムシ	カメムシ目	ミズムシ科	○	4	-
チッチゼミ	カメムシ目	ゼミ科	○	1	-
ヤマトシリアゲ	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	○	5	-
モイワウスバカゲロウ	アミメカゲロウ目	ウスバカゲロウ科	○	2	-
ホシウスバカゲロウ	アミメカゲロウ目	ウスバカゲロウ科	○	1・2・5	-
キョウコシマハナアブ	ハエ目	ハナアブ科	○	5	-
コマバムツボシヒラタアブ	ハエ目	ハナアブ科	○	1・5	-
クロベッコウハナアブ	ハエ目	ハナアブ科	○	5	-
シロスジベッコウハナアブ	ハエ目	ハナアブ科	○	5	-
ヨドシロヘリハンミョウ	コウチュウ目	ハンミョウ科	○(絶滅(注2))	6	絶滅
エリザハンミョウ	コウチュウ目	ハンミョウ科	○	5	-
コハンミョウ	コウチュウ目	ハンミョウ科	○	5	-
ナガマルガタゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
スジミズアトキリゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
ヨツボシミズギワゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-

エゾカタヒロオサムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
オオアトボシアオゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
アオゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
マイマイカブリ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
オオスナハラゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
アリスアトキリゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
クロオビコミズギワゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
コガシラナガゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
キンナガゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
オオクロナガゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○	5	-
オオヒョウタンゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	○(絶滅(注2))	5	絶滅危惧 類
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	コウチュウ目	コツブゲンゴロウ科	○(絶滅(注2))	4	情報不足
コツブゲンゴロウ	コウチュウ目	コツブゲンゴロウ科	○	4	-
ゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	○(絶滅(注2))	4	絶滅危惧 類
マルコガタノゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	○(絶滅(注2))	4	絶滅
シャープゲンゴロウモドキ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	○(絶滅(注2))	4	絶滅
コシマゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	○	3・4	-
ケシゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	○	3・4	準絶滅危惧
ヒメゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	○	3・4	-
ミズスマシ	コウチュウ目	ミズスマシ科	○	4	絶滅危惧 類
セマルケシガムシ	コウチュウ目	ガムシ科	○	4	-
コガムシ	コウチュウ目	ガムシ科	○	3・4	準絶滅危惧
ヒメガムシ	コウチュウ目	ガムシ科	○	3・4	-
ツシマヒラタシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	○	5	準絶滅危惧
モモトシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	○	5	-
コクロシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	○	5	-
オニヒラタシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	○	5	-
ヒメヒラタシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	○	5	-
チビクワガタ	コウチュウ目	クワガタムシ科	○	2・5	-
コクワガタ	コウチュウ目	クワガタムシ科	○	1・2・5	-
ノコギリクワガタ	コウチュウ目	クワガタムシ科	○	2・5	-
ドウガネブイブイ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	準絶滅危惧
オオサカスジコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
ハンノヒメコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
ヒメコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
コスジマグソコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
コマグソコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
フチケマグソコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
アオハナムグリ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
コカブトムシ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	2	-
ナガチャコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
コクロコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
コガネムシ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
マルエンマコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	絶滅危惧 類
ウスチャコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	-
ヒゲコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	絶滅危惧 類
セマルケシマグソコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	○	5	準絶滅危惧
シラケナガタマムシ	コウチュウ目	タマムシ科	○	2・5	-
ウバタマムシ	コウチュウ目	タマムシ科	○	2	-
ハマベオオヒメサビキコリ	コウチュウ目	コメツキムシ科	○	5	絶滅危惧 類
ツシマヒメサビキコリ	コウチュウ目	コメツキムシ科	○	5	準絶滅危惧
ウバタマコメツキ	コウチュウ目	コメツキムシ科	○	2	-
ジュウジミズギワコメツキ	コウチュウ目	コメツキムシ科	○	5	-
ヤマトヒメメダカカッコウムシ	コウチュウ目	カッコウムシ科	○	5・6	-
ジュウクホシテントウ	コウチュウ目	テントウムシ科	○	5・6	準絶滅危惧
ジュウサンホシテントウ	コウチュウ目	テントウムシ科	○	5・6	準絶滅危惧
クロスジチャイロテントウ	コウチュウ目	テントウムシ科	○	5・6	準絶滅危惧
アカイロテントウ	コウチュウ目	テントウムシ科	○	1・2・5	-
ヨツコブゴミムシダマシ	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	○	2	-
クチキムシ	コウチュウ目	クチキムシ科	○	2	-

ピロウドカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
ゴマダラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2・5	-
シロスジカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2・5	-
ケプトハナカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	絶滅危惧 類
クロトラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
フタオビドリトラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○(絶滅(注2))	2	-
シラケトラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
アカハナカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
クモガタケシカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
オオヨツシハナカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
ナガゴマフカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2・5	-
ヒゲナガカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
オオシロカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2・5	-
ヒメスギカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
ノコギリカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2・5	-
コバネカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2・5	-
ベニカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	5	-
スギカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2・5	-
キイロメダカカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
マルクビケマダラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2	-
トラフカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	○	2・5	絶滅危惧 類
バラルリツツハムシ	コウチュウ目	ハムシ科	○	5	-
キオビクビボソハムシ	コウチュウ目	ハムシ科	○	5	-
ヤマモハムシ	コウチュウ目	ハムシ科	○	5	-
ウスモンカレキゾウムシ	コウチュウ目	ゾウムシ科	○	2・5	-
ハスジカツオゾウムシ	コウチュウ目	ゾウムシ科	○	5	-
カツオゾウムシ	コウチュウ目	ゾウムシ科	○	5	-
ヒゲジロキバチ	ハチ目	キバチ科	○	2	-
ニホンキバチ	ハチ目	キバチ科	○	2	-
ノコギリハリアリ	ハチ目	アリ科	○	2	-
カドフシアリ	ハチ目	アリ科	○	2	-
コツノアリ	ハチ目	アリ科	○	2	-
イトウハリアリ	ハチ目	アリ科	○	2	-
ワタセハリアリ	ハチ目	アリ科	○	2	-
トカラウロコアリ	ハチ目	アリ科	○	2	-
オオハラナガツチバチ	ハチ目	ツチバチ科	○	2・5	-
シロオビハラナガツチバチ	ハチ目	ツチバチ科	○	5	-
ムモンホソアシナガバチ	ハチ目	スズメバチ科	○	2・5	-
キボシアシナガバチ	ハチ目	スズメバチ科	○	2・5	-
キアシナガバチ	ハチ目	スズメバチ科	○	2・5	-
ナミカバドロボバチ	ハチ目	ドロバチ科	○	1・5	-
キアシトックリバチ	ハチ目	ドロバチ科	○	1・5	-
フカイドロボバチ	ハチ目	ドロバチ科	○	1・5	-
チャイロスズメバチ	ハチ目	スズメバチ科	○	2・5	-
オオスズメバチ	ハチ目	スズメバチ科	○	2・5	-
キイロスズメバチ	ハチ目	スズメバチ科	○	2・5	-
クロスズメバチ	ハチ目	スズメバチ科	○	2・5	-
キボシトックリバチ	ハチ目	ドロバチ科	○	1・5	-
フトカギチビドロバチ	ハチ目	ドロバチ科	○	1・5	-
サトセナガアナバチ	ハチ目	セナガアナバチ科	○	1・2	-
ミカドジガバチ	ハチ目	アナバチ科	○	2・5	-
キゴシジガバチ	ハチ目	アナバチ科	○	5	絶滅危惧 類
マルモンツチスガリ	ハチ目	ギングチバチ科	○	5	-
オオギングチバチ	ハチ目	ギングチバチ科	○	2	-
ツヤビソ	ハチ目	ギングチバチ科	○	2・5	-
アカゴシクモバチ	ハチ目	クモバチ科	○	5	-
フタモンクモバチ	ハチ目	クモバチ科	○	2	-
ヤマトハキリバチ	ハチ目	ハキリバチ科	○	5	-
ニホンミツバチ	ハチ目	ミツバチ科	○	1・2・5	-
コマルハナバチ	ハチ目	ミツバチ科	○	5	-
クロマルハナバチ	ハチ目	ミツバチ科	○	5	情報不足
ゴキブリヤセバチ	ハチ目	ヤセバチ科	○	1・2	-

アオバセセリ	チョウ目	セセリチョウ科	○	2・5	準絶滅危惧
オオチャバネセセリ	チョウ目	セセリチョウ科	○	2・5	準絶滅危惧
キマダラセセリ	チョウ目	セセリチョウ科	○	5	-
カラスアゲハ日本本土・朝鮮半島亜種	チョウ目	アゲハチョウ科	○	2・5	-
モンキアゲハ	チョウ目	アゲハチョウ科	○	5	-
ツマグロキチョウ	チョウ目	シロチョウ科	○	5	絶滅危惧 類
スジグロシロチョウ	チョウ目	シロチョウ科	○	5	-
トラフシジミ	チョウ目	シジミチョウ科	○	5	-
コムラサキ	チョウ目	タテハチョウ科	○	1・5	-
ルリタテハ日本本土亜種	チョウ目	タテハチョウ科	○	5	-
サトキマダラヒカゲ	チョウ目	タテハチョウ科	○	5	-
コムスジ本州以南亜種	チョウ目	タテハチョウ科	○	5	-
ヒオドシチョウ	チョウ目	タテハチョウ科	○	1・2・5	-
キタテハ	チョウ目	タテハチョウ科	○	5	-
アカタテハ	チョウ目	タテハチョウ科	○	5	-
ヒメジャノメ	チョウ目	タテハチョウ科	○	5	-
ヒメウラナミジャノメ	チョウ目	タテハチョウ科	○	2・5	-
オオモモトスカシバ本土亜種	チョウ目	スカシバガ科	○	1・2・5	-
コスカシバ	チョウ目	スカシバガ科	○	1・2・5	-
カシコスカシバ	チョウ目	スカシバガ科	○	2・5	-
ハチノスツツリガ	チョウ目	メイガ科	○	2・5	-
マダラミズメイガ本州以南亜種	チョウ目	ツトガ科	○	4・5	-
ヒメマダラミズメイガ	チョウ目	ツトガ科	○	4・5	-
シロオビフユシャク	チョウ目	シャクガ科	○	1・2・5	-
ウスバフユシャク	チョウ目	シャクガ科	○	1・2・5	-
ホソウスバフユシャク	チョウ目	シャクガ科	○	1・2・5	-
マツカレハ	チョウ目	カレハガ科	○	2・5	-
クヌギカレハ屋久島以北亜種	チョウ目	カレハガ科	○	2・5	-
ヤママユ屋久島以北亜種	チョウ目	ヤママユガ科	○	2・5	-
シンジュサン対馬以外亜種	チョウ目	ヤママユガ科	○	2・5	-
クスサン屋久島以北亜種	チョウ目	ヤママユガ科	○	2・5	-
ベニスズメ	チョウ目	スズメガ科	○	5	-
オオシモフリスズメ	チョウ目	スズメガ科	○	5	準絶滅危惧
ヒメクロホウジャク	チョウ目	スズメガ科	○	5	-
クロホウジャク	チョウ目	スズメガ科	○	5	-
クチバスズメ	チョウ目	スズメガ科	○	5	-
スゲドクガ	チョウ目	ドクガ科	○	4・5	準絶滅危惧
スゲオオドクガ	チョウ目	ドクガ科	○	4・5	-
ブチヒゲヤナギドクガ	チョウ目	ドクガ科	○	5	絶滅危惧 類
カノコガ	チョウ目	ヒトリガ科	○	5	-
ウスアオリンガ	チョウ目	コブガ科	○	5	準絶滅危惧
ガマヨトウ	チョウ目	ヤガ科	○	4・5	準絶滅危惧
オオトモエ	チョウ目	ヤガ科	○	2・5	-
ヒメアケビコノハ	チョウ目	ヤガ科	○	2・5	-
アケビコノハ	チョウ目	ヤガ科	○	2・5	-
ハグルマトモエ	チョウ目	ヤガ科	○	2・5	-
ムクゲコノハ	チョウ目	ヤガ科	○	5	-

注1：P94の参照

注2：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

クモ類

大阪市内では100種のクモ類が確認されています。このうち、外来種は3種、在来種は94種で、この在来種のうち6種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この6種のうち、ジグモやワスレナグモなど林床に生息するものは減少傾向にあり、公園などでわずかに見られる程度です。また、コガネグモも、餌としている大型の昆虫が減少していることから、あまり見られ

なくなりました。ヒトエグモは、上町台地の古い家屋内やその周辺でのみ見られますが、古い建造物の取り壊し・改築により減少していると考えられています。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッド リスト2014
ジグモ	クモ目	ジグモ科	○	1・2	-
ワスレナグモ	クモ目	ジグモ科	○	1・2	-
コガネグモ	クモ目	コガネグモ科	○	1・2・5	-
ゲホウグモ	クモ目	コガネグモ科	○	2・5	-
ヒノマルコムリグモ	クモ目	コムリグモ科	○	2	-
ヒトエグモ	クモ目	ヒトエグモ科	○	8(大阪城とその付近 の古い建造物周辺)	準絶滅危惧

注1：P94の参照

陸産貝類(生息情報が少ないため、「保護上注目すべき生き物」を選定せず)

大阪市内では27種の陸産貝類が確認されています。大阪市内では、市街化の進行により乾燥が進んだため、陸産貝類の大半は乾燥に適応した種です。それでもなお、社寺林などでは林床に生息する種が見られます。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境	(参考)大阪府 レッドリスト2014
ナガオカモノアラガイ	柄眼目	オカモノアラガイ科	-	-	準絶滅危惧

淡水産貝類

大阪市内では22種の淡水産貝類が確認されています。このうち、外来種は6種、在来種は16種で、この在来種のうち10種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この10種のうち、市内で絶滅したと考えられているのはナカセコカワニナの1種です。現在生息している在来種は、豊かな生物多様性が維持されている淀川ワンド群などで生息していますが、近年、淀川ではヌートリアの淡水産二枚貝に対する食害が拡大しています。特にイシガイなどはイタセンパラをはじめとするタナゴ類の産卵母貝でもあることから、その影響が懸念されます。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッド リスト2014
マメタニシ	原始紐舌目	マメタニシ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
ハベカワニナ	盤足目	カワニナ科	○	5(淀川のみ)	準絶滅危惧
イボカワニナ	盤足目	カワニナ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
ナカセコカワニナ	盤足目	カワニナ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
クロダカワニナ	盤足目	カワニナ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
ヌマガイ	イシガイ目	イシガイ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
マツカサガイ	イシガイ目	マツカサガイ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
トンガリササノハガイ	イシガイ目	マツカサガイ科	○	5(淀川のみ)	絶滅危惧 類
イシガイ	イシガイ目	マツカサガイ科	○	5(淀川のみ)	準絶滅危惧
マシジミ	マルスダレガイ目	シジミ科	○	4・5	絶滅危惧 類

注1：P94の参照

注2：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

海生生物

大阪市内では231種の海生生物が確認されています。このうち、外来種は17種、在来種は214種で、この在来種のうち30種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。大阪市内の干潟は埋め立てなどにより減少したものの、現在、淀川河口には安定な汽水域や干潟が形成されており、これらの海生生物にとって重要なすみかとなっています。また、野鳥園臨港緑地(もと南港野鳥園)の造成干潟では、淀川河口では記録されてこなかった底生生物が多数見つかり、これらの生息環境の創出に大きな役割を果たしています。

なお、市内の港湾には船舶が頻繁に入港し、また人工護岸も多いことから、外来種は増加傾向にあります。

和名	門名	綱名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府 レッドリスト2014
イシワケイソギンチャク	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	-	-	情報不足
小型大平肺吸虫	扁形動物門	吸虫綱	肺吸虫目	肺吸虫科	-	-	情報不足
ヒロクチカノコ	軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
ヒナユキスズメ	軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ目	ユキスズメガイ科	○	6	絶滅危惧 類
フトヘナタリ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	キバウミニナ科	○	6	準絶滅危惧
カワグチツボ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	ワカウラツボ科	○	6	準絶滅危惧
カワザンショウ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	○	6	準絶滅危惧
クワイロカワザンショウ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	-	6	準絶滅危惧
ヒナタムシヤドリカワザンショウ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧 類
エドガワミズゴマツボ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	ミズゴマツボ科	○	6	準絶滅危惧
ミズゴマツボ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	ミズゴマツボ科	○	6	絶滅危惧 類
クレハガイ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	イトカケガイ科	-	-	準絶滅危惧
クサズリクチキレ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	-	-	準絶滅危惧
ヨコイトカケグリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	-	-	情報不足
ヨコスジギリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	-	-	準絶滅危惧
ナギサノシタタリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	オカミミガイ科	○	6	絶滅危惧 類
ウスコミミガイ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	オカミミガイ科	○	6	絶滅危惧 類
イタボガキ	軟体動物門	二枚貝綱	ウグイスガイ目	イタボガキ科	○	6	情報不足
チリハギガイ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	チリハギガイ科	-	-	準絶滅危惧
ムラサキガイ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シオサザナミガイ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧 類
イソシジミ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シオサザナミガイ科	○(絶滅(注2))	-	情報不足
ヤマトシジミ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	○	6	準絶滅危惧
ハマグリ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
オオノガイ	軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	オオノガイ科	○	6	絶滅危惧 類
ソトオリガイ	軟体動物門	二枚貝綱	異脚帯目	オキナガイ科	-	-	準絶滅危惧
ヒメヤマトカワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	-	-	情報不足
ヤマトカワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	-	-	情報不足
ウチワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	-	-	絶滅危惧 類
ヒトツブゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	-	-	準絶滅危惧
ハナオカカギゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	カギゴカイ科	-	-	情報不足
カサネシリス	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	シリス科	-	-	情報不足
カキモトシリス	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	シリス科	-	-	絶滅危惧 類
ニッポンフサゴカイ	環形動物門	多毛綱	フサゴカイ目	フサゴカイ科	-	-	準絶滅危惧
タマシキゴカイ	環形動物門	多毛綱	イトゴカイ目	タマシキゴカイ科	○	6	準絶滅危惧
イソタマシキゴカイ	環形動物門	多毛綱	イトゴカイ目	タマシキゴカイ科	-	-	情報不足
クロイサザアミ	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	-	-	情報不足
ニホンイサザアミ	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	-	-	情報不足
オオサカドロソコエビ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	○	6	絶滅危惧 類
ニホンドロクダムシ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	○	6	準絶滅危惧
タイリクドロクダムシ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	-	-	情報不足
コウベウミナナフシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ウミナナフシ科	-	-	情報不足
ヒメコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	○	6	絶滅危惧 類
トンダガワイソコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	-	-	情報不足
ナナツバコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	-	-	情報不足
ヨツバコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	○	6	準絶滅危惧
ヒガタスナホリムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	○	6	絶滅危惧 類
ハサミシャコエビ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシャコエビ科	-	-	準絶滅危惧

スナガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナガニ科	○	6	準絶滅危惧
チゴガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	-	-	絶滅危惧 類
コメツキガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	-	-	準絶滅危惧
ヤマトオサガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	○	6	-
オサガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	-	-	準絶滅危惧
ユビアカベンケイガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	○	6	準絶滅危惧
フジテガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	○	6	準絶滅危惧
ヒメケフサイソガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスズガニ科	○	6	絶滅危惧 類
ヒメアシハラガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスズガニ科	○	6	準絶滅危惧
オオヒライソガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスズガニ科	-	-	準絶滅危惧
ヒモイカリナマコ	棘皮動物門	ナマコ綱	無足目	イカリナマコ科	-	-	準絶滅危惧
マキヒトエグサ	緑色植物門	アオサ藻綱	ヒビミドロ目	マキヒトエグサ科	○	6	準絶滅危惧
ホソアヤギヌ	紅色植物門	紅藻綱	イギス目	コノハノリ科	○	6	準絶滅危惧

注1：P94の参照

注2：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

その他淡水産無脊椎動物（生息情報が少ないため「保護上注目すべき生き物」を選定せず）

大阪市内では水田が減少しており、淡水性種の主な生息環境は淀川・大和川といった大きな河川と都市公園の池に限られます。都市公園ではスジエビやテナガエビなどの在来種も見られますが、外来種も多く、アメリカザリガニなど生態系への影響が大きい種も生息しています。また、ミナミヌマエビ属で知られているような、在来種と形態による識別が困難な外来種も侵入している可能性があります。

維管束植物

大阪市内では、花壇などの植栽を除き、1,488種の維管束植物が確認されています。このうち外来種は844種、在来種は644種で、この在来種のうち165種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この中には、ムサシモなどすでに絶滅した10種や、大阪府レッドリスト2014でも絶滅危惧Ⅰ類に指定されているヒキノカサやワンドスゲのほか、水田周辺や河口干潟に生育する多くの植物が含まれています。かつては、淀川水系のヨシなどの低湿地環境に生育する植物が広く分布していたと考えられますが、現在の重要な生育場所としては、大和川堤防、淀川堤防、住吉大社（御神殿を含む）などの各地の社寺林、上町台地の斜面林、上町台地西側湿地、野鳥園臨港緑地（もと南港野鳥園）や淀川河口の塩湿地などがあげられます。

和名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府 レッドリスト2014
ハマハナヤスリ	ハナヤスリ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧 類
マツバラ	マツバラ科	-	-	絶滅危惧 類
デンジソウ	デンジソウ科	-	-	絶滅危惧 類
ミズワラビ	イノモトソウ科	○	3・5	-
サンショウモ	サンショウモ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧 類
オオアカウキクサ	サンショウモ科	-	-	絶滅
ヒツジグサ	スイレン科	-	-	準絶滅危惧
コウヤマキ	コウヤマキ科	-	-	情報不足
コウホネ	スイレン科	-	-	絶滅危惧 類
ハンゲショウ	ドクダミ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ科	○	5	-
カラスビシャク	サトイモ科	○	1・5	-
オモダカ	オモダカ科	○	3・4・5	-
クロモ	トチカガミ科	○	4・5	-
トチカガミ	トチカガミ科	○	4・5	絶滅危惧 類
ムサシモ	トチカガミ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅

イトトリゲモ	トチカガミ科	○	3・5	絶滅危惧 類
ホッスモ	トチカガミ科	○	3・5	-
トリゲモ	トチカガミ科	○	5	情報不足
ミスオオバコ	トチカガミ科	○	3・4	準絶滅危惧
コウガイモ	トチカガミ科	○	5	準絶滅危惧
セキショウモ	トチカガミ科	-	-	絶滅
イトモ	ヒルムシロ科	○	4・5	絶滅危惧 類
センニンモ	ヒルムシロ科	○	5	準絶滅危惧
ホソバミズヒキモ	ヒルムシロ科	○	4・5	-
ササバモ	ヒルムシロ科	○	5	準絶滅危惧
イトクズモ	ヒルムシロ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
カワツルモ	カワツルモ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
ソクシンラン	キンコウカ科	○	1・2・5	-
シラン	ラン科	-	-	絶滅危惧 類
ヒオウギ	アヤマ科	-	-	絶滅危惧 類
ノカンゾウ	ススキノキ科	-	-	絶滅危惧 類
ツルボ	キジカクシ科	○	5	-
ヒメヤブラン	キジカクシ科	○	5	-
ヤブラン	キジカクシ科	○	2・5	-
ノシラン	キジカクシ科	○	2	情報不足
ナガバジャノヒゲ	キジカクシ科	○	2	-
イボクサ	ツユクサ科	○	3・4・5	-
ミズアオイ	ミズアオイ科	○	3・4・5	絶滅危惧 類
ガマ	ガマ科	○	4・5・8(湿った空き地にも生育)	-
コガマ	ガマ科	○	4・5・8(湿った空き地にも生育)	準絶滅危惧
ハナビゼキショウ	イグサ科	○	3・4・5(湿った空き地にも生育)	-
イグサ	イグサ科	○	3・4・5(湿った空き地にも生育)	-
ヒロハノコウガイゼキショウ	イグサ科	○	4・5	-
コウガイゼキショウ	イグサ科	○	3・4・5・8(湿った空き地にも生育)	-
ホソイ	イグサ科	○	3・5	-
ウキヤガラ	カヤツリグサ科	○	5	-
コウキヤガラ	カヤツリグサ科	○	5	-
イトハナビテンツキ	カヤツリグサ科	○	3・5	-
ワンドスゲ	カヤツリグサ科	○	5	絶滅危惧 類
カサスゲ	カヤツリグサ科	○	5	-
コウボウムギ	カヤツリグサ科	○	8(海浜に生育するが、現在の大阪市内には該当する環境は無く、絶滅の可能性が高い)	絶滅危惧 類
ヤガミスゲ	カヤツリグサ科	○	5	準絶滅危惧
ピロードスゲ	カヤツリグサ科	○	5	準絶滅危惧
ミコシガヤ	カヤツリグサ科	○	5	準絶滅危惧
アゼスゲ	カヤツリグサ科	○	3・5	-
ヒトモトススキ	カヤツリグサ科	-	-	絶滅危惧 類
アイダクグ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
タマガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ヒナガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
アオガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
オオシロガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ミスガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
シカクイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ヒメヒラテンツキ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ヒデリコ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
イソヤマテンツキ	カヤツリグサ科	○	5	-
ヤマイ	カヤツリグサ科	○	5	-
メアゼテンツキ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ヒンジガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ホタルイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
イヌホタルイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
フトイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	絶滅危惧 類
サンカクイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
マツカサススキ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	絶滅危惧 類
コウボウ	イネ科	○	2	-
コブナグサ	イネ科	○	3・4・5	-
ヤマアワ	イネ科	○	5	-
オガルカヤ	イネ科	○	5	-
タイヌビエ	イネ科	○	3・4・5	-
コゴメカゼクサ	イネ科	-	-	絶滅危惧 類
ムツオレグサ	イネ科	○	3・4・5	-
ヒロハノドジョウツナギ	イネ科	○	3・4・5	-

ウシノシッペイ	イネ科	○	4・5	-
チゴザサ	イネ科	○	3・4・5	-
ハイチゴザサ	イネ科	○	3・4・5	-
カモノハシ	イネ科	○	5	-
ミノボロ	イネ科	○	5	絶滅危惧 類
アシカキ	イネ科	○	5	-
チャボチヂミザサ	イネ科	-	-	準絶滅危惧
アイアシ	イネ科	○(絶滅(注2))	-	準絶滅危惧
ツルヨシ	イネ科	○	5	-
ハマヒエガエリ	イネ科	○	6・7	-
ウシクサ	イネ科	○	2	絶滅危惧 類
ヒゲシバ	イネ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
マコモ	イネ科	○	4・5	-
マツモ	マツモ科	○	4・5	-
メギ	メギ科	-	-	準絶滅危惧
ウマノアシガタ	キンボウゲ科	○	3・4・5	-
キツネノボタン	キンボウゲ科	○	3・4・5	-
ヒキノカサ	キンボウゲ科	○	5	絶滅危惧 類
ツゲ	ツゲ科	-	-	準絶滅危惧
タコノアシ	タコノアシ科	○	5	準絶滅危惧
ハマエンドウ	マメ科	○	7・8(海浜に主に生育する。その周辺の荒地にも生育することあり)	準絶滅危惧
ツルフジバカマ	マメ科	-	-	絶滅危惧 類
オオバクサフジ	マメ科	-	-	絶滅危惧 類
モモ	バラ科	-	-	絶滅危惧 類
ツチグリ	バラ科	-	-	絶滅
シモツケ	バラ科	-	-	情報不足
ユキヤナギ	バラ科	-	-	絶滅危惧 類
ハルニレ	ニレ科	-	-	絶滅
カシワ	ブナ科	-	-	準絶滅危惧
オニグルミ	クルミ科	○	5	-
ゴキツル	ウリ科	○	4・5	-
カラスウリ	ウリ科	○	1	-
スズメウリ	ウリ科	○	1	-
コゴメヤナギ	ヤナギ科	○	5	-
カワヤナギ	ヤナギ科	○	5	-
オオタチヤナギ	ヤナギ科	○	5	-
タチヤナギ	ヤナギ科	○	5	-
ヒゴスミレ	スミレ科	-	-	絶滅危惧 類
タチツボスミレ	スミレ科	○	1・2	-
ヒメミソハギ	ミソハギ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ミズマツバ	ミソハギ科	○	5	準絶滅危惧
ヒシ	ミソハギ科	○	4・5	-
オニビシ	ミソハギ科	○	4・5	-
ハマボウ	アオイ科	-	-	絶滅
ミズタマソウ	アカバナ科	○	5・8(湿った林床に生育するが、現在の大阪市内には該当する環境は無く、絶滅の可能性が高い)	-
チョウジタデ	アカバナ科	○	3・4・5	-
コイヌガラシ	アブラナ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
スカシタゴボウ	アブラナ科	○	3・4・5	-
ホソバイヌタデ	タデ科	○	5	絶滅危惧 類
ナガバノウナギツカミ	タデ科	○	5	絶滅危惧 類
シロバナサクラタデ	タデ科	○	5	-
サデクサ	タデ科	○	5	準絶滅危惧
ハルタデ	タデ科	○	3・4・5	-
サクラタデ	タデ科	○	3・5	-
ボントクタデ	タデ科	○	1・5	-
ウナギツカミ	タデ科	○	3・5	-
ヌカボタデ	タデ科	○	5	絶滅危惧 類
アキノミチヤナギ	タデ科	○	7・8(海浜環境及びその周辺の荒地に生育)	-
コギシギシ	タデ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ギシギシ	タデ科	○	1・3・5	-
イシモチソウ	モウセンゴケ科	-	-	絶滅危惧 類
ツメクサ	ナデシコ科	○	2・3・4・5	-
ノミノフスマ	ナデシコ科	○	3・4・5	-
ハママツナ	ヒユ科	○	6	絶滅危惧 類
ツルナ	ハマミズナ科	○	6	-
トキワガキ	カキノキ科	-	-	準絶滅危惧

ヌマトラノオ	サクラソウ科	○	3・4・5	-
クリンソウ	サクラソウ科	-	-	絶滅危惧 類
コカモメツル	キョウチクトウ科	○	1・2・5	-
コバノカモメツル	キョウチクトウ科	○	1・2・5	絶滅危惧 類
ハマヒルガオ	ヒルガオ科	○	7・8 (海浜環境及びその周辺の荒地に生育)	-
ネナシカズラ	ヒルガオ科	○	5	-
オオマルバノホロシ	ナス科	○	5	絶滅危惧 類
アワゴケ	オオバコ科	○	3・4・5	-
ミスハコベ	オオバコ科	○	3・4・5	-
イヌノフグリ	オオバコ科	○	1・2	-
カワヂシャ	オオバコ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ゴマノハグサ	ゴマノハグサ科	○ (絶滅 (注 2))	-	絶滅危惧 類
アゼトウガラシ	アゼナ科	○	3・4・5	-
アゼナ	アゼナ科	○	3・4・5	-
キランソウ	シソ科	○	2・5	-
コムラサキ	シソ科	-	-	絶滅危惧 類
メハジキ	シソ科	○	5	-
シロネ	シソ科	○	5	-
ヒメサルダヒコ	シソ科	○	5	-
ヒメジソ	シソ科	○	3・4・5	-
アキノタムラソウ	シソ科	○	1・2・5	-
ミソコウジュ	シソ科	○	5	準絶滅危惧
タツナミソウ	シソ科	○	1・2・5	-
ナミキソウ	シソ科	○ (絶滅 (注 2))	-	絶滅
イヌゴマ	シソ科	○	5	-
ハマゴウ	シソ科	-	-	絶滅危惧 類
イヌタヌキモ	タヌキモ科	○	4	準絶滅危惧
ミソカクシ	キキョウ科	○	3・5	-
アサザ	ミツガシワ科	-	-	情報不足
オトコヨモギ	キク科	○	5	-
センダングサ	キク科	○	5	-
タウコギ	キク科	○	5	-
ヤブタバコ	キク科	○	1・2・5	-
ヨシノアザミ	キク科	○	1・2・5	-
ヤクシソウ	キク科	○	2	-
タカサブロウ	キク科	○	3・4・5	-
コオニタビラコ	キク科	○	3・4・5	-
ヤブタビラコ	キク科	○	1・2	-
フキ	キク科	○	5	-
コウゾリナ	キク科	○	1・5	-
ハハコグサ	キク科	○	1・3・5	-
キクアザミ	キク科	-	-	絶滅危惧 類
カンサイタンポポ	キク科	○	1・5	-
ウラギク	キク科	○	6	準絶滅危惧
オナモミ	キク科	○ (絶滅 (注 2))	-	絶滅
ハマウド	セリ科	○	6・8 (海浜環境や、干潟の周囲の草地に生育)	-
ドクゼリ	セリ科	○	4・5	絶滅危惧 類
セリ	セリ科	○	3・4・5	-

注 1 : P94 の 参照

注 2 : 市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから 30 年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

大阪市内で確認はされていても園芸による植栽由来と考えられる種は大阪市内における「保護上注目すべき生き物」として分類していない。例えばツチグリやユキヤナギは大阪府レッドリスト 2014 で絶滅とされているが、大阪市内で見られるものは園芸植物由来のものであると考えられるため、「保護上注目すべき生き物」として分類していない。

コケ類

大阪市内では 96 種のコケ類が確認されています。このうち、外来種は 1 種、在来種は 95 種で、この在来種のうち、冬季の水位が下がった水田や浅いため池に見られるイチョウウキゴケ、ハタケゴケなどの水辺のコケ 4 種と、樹幹着生性のオオスミヨウジョウゴケの合計 5 種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この 5 種については、市内で水田が減少し、ため池などが人工護岸化されたため、生育地が減少したと考えられます。大阪市内の重要な生息地としては、市内に残る貴重な水田、大阪城北側の石垣、上町台地西側の樹林帯及び湿地、大阪城公園・靱公園・長居公園などの大径木を残した公園などがあげられます。

和名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府 レッドリスト 2014
オオスミヨウジョウゴケ	クサリゴケ科		1・2	情報不足
ウキゴケ	ウキゴケ科		3・4	絶滅危惧 類
ミヤケハタケゴケ	ウキゴケ科		1・3	情報不足
ミドリハタケゴケ	ウキゴケ科		1・3	準絶滅危惧
イチョウウキゴケ	ウキゴケ科		3・4	情報不足

注1：P94 の 参照

菌類（生育情報が少ないため、「保護上注目すべき生き物」を選定せず）

菌類は、動物・植物から独立した酵母、カビ、きのこなどを含む多様な生物群ですが、生物多様性保全の上では、肉眼的な観察記録の残る大型菌類（きのこ類）に焦点が当てられます。きのこ類には、マツ科やブナ科などの樹木と共生する外生菌根菌類、木材腐朽菌、落葉分解菌など、森林に依存する種が多いので、樹林地の少ない大阪市内での調査事例は極めて少なく、長居公園や大阪城公園での調査事例に限られています。それでも、大阪市内には 282 種の生育が確認されており、市内の生態系の中において、動植物の分解・吸収などで重要な役割を果たしていると言えます。大阪市内の生息情報が少ないため、明確な判断は難しいですが、かつて住吉大社周辺で広く採取されていたというショウロ（大阪府レッドリスト 2014 の絶滅危惧 II 類）などは、大阪市内では絶滅した可能性が高いと考えられます。一方、イカタケ、カゴタケなどの希少種が市街地の緑地などから見つかる可能性があると考えられます。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッド リスト 2014
ホオベニシロアシグチ	ハラタケ目	イグチ科	-	-	準絶滅危惧
ハツタケ	ハラタケ目	ベニタケ科	-	-	準絶滅危惧
ケシボウスタケ	ケシボウスタケ目	ケシボウスタケ科	-	-	準絶滅危惧
スジチャダイゴケ	チャダイゴケ目	チャダイゴケ科	-	-	準絶滅危惧
カゴタケ	スッポンタケ目	アカカゴタケ科	-	-	絶滅危惧 類
イカタケ	スッポンタケ目	アカカゴタケ科	-	-	絶滅危惧 類
ショウロ	ヒメノガステル目	ショウロ科	-	-	絶滅危惧 類
クモタケ	スチルペラ目	スチルペラ科	-	-	情報不足

注1：P94 の 参照

【参考】

各種調査によると、1950年頃から大阪市内で生息・生育記録がある種は合計4,502種です。このうち、「大阪府レッドリスト2014」に掲載されている種は、絶滅は18種、絶滅危惧類は51種、絶滅危惧類は100種、準絶滅危惧は159種、情報不足は35種と、合計363種となります。

大阪市内の希少な生き物（総括表）

No.	分類群	市内で生息・生育していることが確認された種	「大阪府レッドリスト2014」掲載種				
			絶滅	絶滅危惧類	絶滅危惧類	準絶滅危惧	情報不足
1	ほ乳類	16	0	1	1	1	0
2	鳥類	324	0	6	26	44	2
3	爬虫類	11	0	0	1	1	0
4	両生類	7	0	1	1	2	0
5	汽水・淡水魚類	120	0	12	6	8	4
6	昆虫類	1,768	4	11	20	38	4
7	クモ類	100	0	0	0	1	0
8	陸産貝類	27	0	0	0	1	0
9	淡水産貝類	22	1	1	6	2	0
10	海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	231	2	2	12	27	16
11	その他淡水産無脊椎動物	10	0	0	0	0	0
12	維管束植物	1,488	11	17	23	29	5
13	コケ植物	96	0	0	1	1	3
14	菌類	282	0	0	3	4	1
	合計	4,502	18	51	100	159	35

(2) 特定外来生物

大阪市内で確認されている生き物のうち、特定外来生物に指定されているものは、ほ乳類3種、鳥類1種、爬虫類1種、両生類1種、魚類4種、昆虫類3種、クモ類2種、淡水産貝類1種、維管束植物8種の合計24種となります。

分類群	和名	科名
ほ乳類	アライグマ	アライグマ科
ほ乳類	タイワンリス	リス科
ほ乳類	ヌートリア	ヌートリア科
鳥類	ソウシチョウ	チメドリ科
爬虫類	カミツキガメ	カミツキガメ科
両生類	ウシガエル	アカガエル科
魚類	カダヤシ	カダヤシ科
魚類	ブルーギル	サンフィッシュ科
魚類	オオクチバス	サンフィッシュ科
魚類	コクチバス	サンフィッシュ科
昆虫類	アルゼンチンアリ	アリ科
昆虫類	アカカミアリ	アリ科
昆虫類	ヒアリ	アリ科
クモ類	ハイイロゴケグモ	ヒメグモ科
クモ類	セアカゴケグモ	ヒメグモ科
淡水産貝類	カワヒバリガイ	イガイ科
維管束植物	ボタンウキクサ	サトイモ科
維管束植物	オオフサモ	アリノトウグサ科
維管束植物	アレチウリ	ウリ科
維管束植物	ナガエツルノゲイトウ	ヒユ科
維管束植物	オオカワヂシャ	オオバコ科
維管束植物	オオキンケイギク	キク科
維管束植物	ミズヒマワリ	キク科
維管束植物	ナルトサワギク	キク科

5 . 大阪市内の生物多様性関連施設など 一覧

施設など	掲載頁	所在地	電話番号など
自然史博物館	33	〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23	T E L :06-6697-6221 U R L : http://www.mus-nh.city.osaka.jp/
環境科学研究センター	33	〒543-0026 大阪市天王寺区東上町 8-34	T E L :06-6771-3017 U R L : http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/000008417.html
天王寺動物園	33	〒543-0063 大阪市天王寺区茶白山町 1-108	T E L :06-6771-8401 U R L : http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu170/tennojizoo/
長居植物園	33	〒546-0034 大阪市住吉区長居公園 1-23	T E L :06-6696-7117 U R L : http://www.nagai-park.jp/n-syoku/index.html
咲くやこの花館	34	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園 2-163	T E L :06-6912-0055 U R L : http://www.sakuyakonohana.jp/
海遊館	34	〒552-0022 大阪市港区海岸通 1-1-10	T E L :06-6576-5501 U R L : http://www.kaiyukan.com/
野鳥園臨港緑地 (もと南港野鳥園)	34	〒559-0034 大阪市住之江区南港北 3-5-30	《施設の管理に関すること》 大阪市港湾局計画整備部施設管理課緑地管理グループ T E L :06-6572-4050 《観察会やイベントに関すること》 大阪市建設局臨港方面管理事務所 T E L :06-6613-7716 U R L : http://www.osaka-nankou-bird-sanctuary.com/
自然体験観察園 (花博記念公園鶴見緑地内)	34	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園 2-135	なにわE C Oスクエア T E L :06-6915-5820 U R L : http://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/000390039.html
大阪城公園	34	〒540-0002 大阪市中央区大阪城 3-11	T E L :06-6755-4146 U R L : http://osakacastlepark.jp/
住吉大社	34	〒558-0045 大阪市住吉区住吉2-9-89	T E L :06-6672-0753
新梅田シティ 新・里山	35	〒531-0076 大阪市北区大淀中 1-1-88 新梅田シティ内	総合インフォメーション T E L :06-6440-3899 U R L : http://www.skybdg.co.jp/satoyama/
なんばパークス	35	〒556-0011 大阪市浪速区難波中 2-10-70	パークスガーデン事務局 T E L :06-6647-0092 (10:00 ~ 18:00) U R L : http://www.nambaparks.com/parks_garden.html
ハグミュージアム	35	〒550-0023 大阪市西区千代崎 3-2-59	T E L :06-6586-3789 (休館日 : 水曜日) U R L : http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/hugmuseum/index.html
新ダイビル 堂島の杜	35	〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1-2-1	T E L :06-6441-1934 U R L : http://www.daibiru.co.jp/office_osaka/newdaibiru/
加賀屋新田会所跡・ 加賀屋緑地	36	〒559-0015 大阪市住之江区南加賀屋 4-8	T E L :06-6683-8151
あべのハルカス	36	〒545-6090 大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43	U R L : https://www.abenoharukas-300.jp/
大阪ステーションシティ	36	〒530-8558 大阪市北区梅田 3-1-3	T E L :06-6458-0212 U R L : https://osakastationcity.com/green/
実験集合住宅 「NEXT21」	36	〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町 6-16	U R L : http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/next21/

6 . 用語集 (5 0 音順)

あ行

愛知目標 (はじめに, P1,3,4,41)

コラム 1 参照 (P3)

維管束植物 (P25,93,106,111,112)

維管束と呼ばれる通道組織 (植物の水分や養分の通路となる組織) を有する植物の総称。具体的には、シダ植物及び種子植物 (裸子植物、被子植物) をいい、菌類、藻類、コケ類などと区別される。

遺伝子組換え生物 (P60)

遺伝子組換え技術 (組換え DNA 技術) によって生み出された生物のこと。遺伝子組換え技術とは、ある生物の遺伝子 (DNA) を人為的に、ほかの生物の染色体などに導入する技術。この技術により、その生き物に新しい能力や性質を持たせたり、ある機能をなくしたりさせることができることから、食品生産を量的・質的に向上させるだけでなく、加工特性などの品質向上に利用されている。

遺伝資源へのアクセスと利益配分 (ABS) (P60)

コラム 23 参照 (P58)

おおさか環境科 (P45)

地球温暖化、生物多様性、ごみ減量、都市環境保全など、持続可能な社会づくりに向けた環境教育の充実に向け、小中学校の授業の中で使用するために大阪市が作成している副読本。大阪の環境の特色を踏まえた内容で、小学校中学年・同高学年・中学校の3部で構成されている。

おおさか環境ネットワーク (P46)

大阪市内を活動拠点とする環境保全活動や環境教育など環境活動を行う市民団体、環境 N G O / N P O、事業者などにより構成される、大阪市環境局が立ち上げたネットワーク。各主体間の連携と協働のもとで、環境問題解決に向けた行動を実践するための取組みを進めている。

大阪市エコボランティア (P43)

大阪市が実施する環境施策・事業 (環境学習に関する講座及びイベント、自然体験観察園に関する事業、こどもエコクラブ事業、環境学習ネットワーク強化に関する取組みなど) に対し、ボランティアとして運営補助や技術的支援などを担っていただく方を本市がエコボランティアとして登録している。

大阪市環境基本計画 (P2)

平成 7 年 (1995) 年 4 月に施行した「大阪市環境基本条例」は、その理念として「現在及び将来の市民が安全で健康かつ快適な生活を営むことができる良好な都市の環境を確保すること」を定めており、この理念を実現するため、条例第 8 条に基づき「環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境の保全及び創造に関する基本的な計画」として 2011 年 3 月に定めたもの。2011 年度から 2020 年度までの 10 年間の計画であり、「低炭素社会の構築」、「循環型社会の形成」、「快適な都市環境の確保」の 3 つを環境施策の柱とし、「すべての主体の参加と協働」のもとで施策を進め、持続可能な大都市のモデルとなる「環境先

進都市大阪」の実現をめざしている。

大阪自然史フェスティバル (P46,79)

大阪周辺の自然に関わる様々な団体が集まり、大阪の自然のおもしろさ、活動の楽しさを伝える場として、「自然派市民の文化祭」をテーマに2003年に初めて開催された。その後、毎年テーマの異なるフェスティバルが開催されている。近年では、企業の協賛・協力を得て、NPOが主催する同種イベントとしては国内最大級のフェスティバルとなっている。

大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕(P1,67)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、本市が市域の自然社会的条件に応じて温室効果ガスの排出の抑制などを進めるために策定した計画。2017年3月に策定した現行の計画では、大阪市域の温室効果ガス排出量を、計画期間である2020年度までに2013年度比で5%以上削減をめざすとともに、中期目標として、2030年度までに2013年度比で30%削減をめざしている。

大阪市地球温暖化対策実行計画〔事務事業編〕(P68)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、本市が本市の事務事業に関して、温室効果ガスの排出の抑制などを行うために策定した計画。2017年3月に策定した現行の計画では、本市の事務事業に伴う温室効果ガス総排出量を、計画期間である2020年度までに2013年度比で8.4%の削減をめざしている。

大阪市地球温暖化対策推進本部 (P72,74,76)

市域における市民や事業者などの活動及び本市の事務事業に伴って排出する温室効果ガスの意欲的な削減並びに気候変動の影響への対処に向けて、全庁的に地球温暖化対策を総合的かつ強力に推進するために設置した本市の内部組織。この推進本部のもとに、本市地球温暖化対策の推進に関する課題の調査及び検討を行うため、区域施策編推進プロジェクトチーム及び事務事業編推進プロジェクトチームを設置している。さらに、両プロジェクトチームのもとに、生物多様性保全の推進のため、生物多様性保全推進ワーキンググループを設置している。(P70の「庁内の生物多様性保全推進体制(2018年3月現在)」参照)

おおさか生物多様性施設連絡会 (P46)

2016年度に大阪府内の博物館や水族館などの施設連携のもと、官民あげて生物多様性の普及啓発及びその実践活動を促進することを目的として設立した連絡会。

大阪生物多様性保全ネットワーク (P39,46,93)

コラム12参照(P39)

大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム(大阪HITEC)(P64)

民間企業、大学、大阪府、大阪市、環境NPOなどで構成されるコンソーシアム(共通の目的に取り組む産学官民の連合体)であり、「産学官民によるパートナーシップの構築」、「知見の収集と整理」、「技術開発」、「普及啓発」などを通じ、ヒートアイランド現象緩和への貢献をめざした活動を行っている。

おおさかヒートアイランド対策推進計画 (P64)

2015年3月に大阪府と大阪府とともに、ヒートアイランド対策の基本的な考え方や目標、取組内容を定めた計画。計画期間である2025年度までに、「住宅地域における夏の夜間気温を下げることにより、地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日を2000年より3割減らす」とともに、「屋外空間における既存のクールスポットの活用や創出をすることにより、屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善する」ことをめざしている。

大阪府レッドリスト2014 (P25,27,29,48,94,95,97,98,99,104,106,109,110,111)

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生動植物などについて、絶滅への危険度に応じてランク付けしたもの。「大阪府レッドリスト2014」は、大阪府が、府内に生息・生育する保護上重要な野生動植物の現状を府民の方々に知っていただき、豊かな自然環境の保全や野生動植物保護を進めていくための資料として、2014年に取りまとめたもの。

大阪 水・環境ソリューション機構 (OWESA) (P71)

大阪市・府と大阪・関西の経済界が、行政が持つこれまでの豊富な経験と、民間が持つ先進的な技術を活かして、海外の水・環境問題解決に貢献するとともに、大阪・関西企業の海外展開を通じた地域経済活性化を図るために設立した組織。

大阪湾再生行動計画 (P57)

京阪神都市圏を含む広い範囲の集水域を抱え、その一方で閉鎖性海域であり、水環境改善に向けた課題が多く残された大阪湾において「海の再生」を推進するため、関係省庁及び関係地方公共団体などが大阪湾の水環境の改善など「海と都市の関わり」に重点を置く総合的な「海の再生」のための取組みをまとめたもの。

大阪湾見守りネット (P46)

2005年2月26日に開催した「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」に集まったメンバーを中心に、大阪湾に関心のある個人や団体が構成されるネットワークで、2005年11月12日に設立された。大阪湾再生に向けた情報発信やフォーラムの開催などの取組みを行っている。

か行

海退 (P18)

海面の低下、または陸地の隆起により、海岸線が海側に後退し、陸域が拡大すること。

外来生物 (P27,39,40,50,51,75)

外来生物法においては、「海外から国内に導入されることにより、その本来の生息・生育地の外に存在する生物」と定義されている。つまり、国外から日本に導入されるもののみを対象としており、いわゆる国内由来の外来種は含まない。

環境活動推進施設 (愛称「なにわECOスクエア」) (P45,72,73,86,113)

花博記念公園鶴見緑地内にある施設で、隣接する自然体験観察園での講座や環境学習講座の実施場所及び環境NGO/NPOやエコボランティアが環境保全活動を展開できるプラットフォームとして活用している。

緩傾斜護岸 (P57)

護岸・堤防の裾幅を拡げ、勾配を緩やかにすることにより、耐震性を高めるとともに、身近な水辺空間を実現して親水性を向上させた護岸。海中部では海藻を生育させやすく多様な生態系を創出できる。

感潮域 (P94)

河川の下流域で潮の干満の影響を受ける場所。引き潮のときは、川岸に干潟が現れるが、反対に満潮のときには干潟は水の中に沈む。

企業の森 (P37)

企業・団体が、CSR（企業の社会的責任）活動や社会・環境貢献活動、また地域との交流活動の一環として取り組む森林環境保全事業の総称。

気候変動に関する国際連合枠組条約（気候変動枠組条約）(P1)

地球温暖化対策に関する取組みを国際的に協調して行っていくため、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議（地球サミット）において採択され、1994年に発効した。本条約は、気候に危険な人為的影響を及ぼすこととならない水準で、大気中の温室効果ガス濃度を安定化することを目的として掲げており、締約国に温室効果ガスの排出・吸収目録の作成、地球温暖化対策のための国家計画の策定とその実施などの義務を課している。

気候変動の影響への適応計画 (P1)

気候変動の影響による被害を最小化あるいは回避し、迅速に回復できる、安全・安心で持続可能な社会の構築をめざし、政府全体として、全体で整合のとれた取組みを総合的かつ計画的に推進するため、国が2015年11月に策定した計画。「農業、森林・林業、水産業」、「水環境・水資源」、「自然生態系」、「自然災害・沿岸域」、「健康」、「産業・経済活動」、「国民生活・都市生活」の各分野における気候変動の影響評価結果の概要と適応の基本的な施策などが示されている。

汽水域 (はじめに, P22, 24, 27, 40, 48, 94, 98, 99, 105)

淡水と海水が混在している、河川・湖沼及び沿海などの水域。

グリーンインフラストラクチャー（グリーンインフラ）(P52, 54)

コラム 19 参照 (P54)

グリーン調達 (P63)

企業や官公庁が、環境負荷の少ない製商品・サービスや環境配慮などに積極的に取り組んでいる民間事業者から優先的に部品や備品などを調達する取組み。

(公社)日本植物園協会 (P49)

正式名称は公益社団法人 日本植物園協会、全国の植物園で構成された団体。全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園や植物に関する文化の発展と科学技術の振興、自然環境の保全に貢献する事業を実施し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的として活動している。

(公社)日本動物園水族館協会 (P49,70)

正式名称は公益社団法人 日本動物園水族館協会。国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するために設立された、国内の 151 の動物園や水族館の集まり。日本全体の視野に立って、一つひとつの動物園や水族館では実施できない取組みを協力して実施している。

国際自然保護連合 (I U C N)(P51,70)

International Union for Conservation of Nature の略。1948 年に世界的な協力関係のもと設立された、国家、政府機関、非政府機関で構成される国際的な自然保護に関する世界最大のネットワーク。自然を尊び、保全する公正な世界をめざし、自然が持つ本来の姿とその多様性を保護しつつ、自然資源の公正かつ持続可能な利用を確保するため、世界中のあらゆる社会に影響を及ぼし、勇気づけ、支援していくことを使命としている。

国際花と緑の博覧会 (P33,34,70)

現在の花博記念公園鶴見緑地において、1990 年 4 月から 9 月までの 183 日間開催された国際博覧会条約に基づく特別博覧会であり、東洋で初めての開催された国際園芸博覧会。「自然と人間との共生」をテーマに、「花と緑と人間生活の関わりをとらえ、21 世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす」ことをねらいとして開催された。

国連環境開発会議 (地球サミット)(P1)

1972 年の国連人間環境会議 (ストックホルム会議) 以来、環境問題への取組みが本格化する中、1992 年にブラジルのリオデジャネイロで開催された環境と開発に関する国連会議。地球温暖化、酸性雨など顕在化する地球環境問題を人類共通の課題と位置付け、「持続可能な開発」という理念のもとに環境と開発の両立をめざして開催された。気候変動枠組条約及び生物多様性条約が採択された。

国連持続可能な開発会議 (リオ + 20)(P1)

1992 年の「国連環境開発会議 (地球サミット)」から 20 周年を迎える機会に、同会議のフォローアップ会合を行うことをブラジル政府が提案したことを受け、2012 年にブラジルのリオデジャネイロで開催された。持続可能な開発目標 (SDGs) を制定することが確認された。

こどもエコクラブ事業 (P43)

幼児 (3 歳) から高校生までなら誰でも参加できる環境活動クラブ。子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子どもたちが人と環境の関わりについて理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としている。

さ行

里地里山 (P14)

人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域で、二次林、農地、ため池、草原などで構成される、多様な生物の生息・生育空間のこと。人間の生活・生産活動の場であり、生活文化が育まれる空間でもある。

C O D (P65)

Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) の略。水中の有機物などが過マンガン酸カリウムなどの酸化剤

によって酸化されるときに消費される酸素の量で、水質汚濁を測る代表的な指標。この数値が大きいほど水中の汚濁物質の量が多いことを示している。

持続可能な開発目標 (SDGs) (P1,3,5,41)

コラム 2 参照 (P5)

食品ロス (P32,58,62)

食べられずに捨てられてしまう食品で、家庭や飲食店での「食べ残し」や「手つかずの食品」、弁当や加工食品などの「売れ残り」が該当する。

水源かん養機能 (P24)

森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。

生産緑地法 (P53)

良好な都市環境を確保するため、農林漁業との調整を図りつつ、都市部に残存する農地の計画的な保全を図るための法律。生産緑地地区に指定されると、30 年間は農地として営農することが義務付けされるという制約はあるが、地区内の農地については固定資産税などの税制上の優遇措置を受けられる場合がある。

生態系 (はじめに, P1,4,5,6,7,8,10,12,13,14,15,18,27,35,37,41,49,50,51,52,54,56,57,62,69,73,106,110)

ある地域に生息している多種類の生物全体と、それらの生物の基盤となっている土壌や水、大気などの物理的・化学的な環境を一つのシステムとしてとらえたもので、エコシステムともいう。

生態系ネットワーク (エコロジカルネットワーク) (P41,49,52,56,57)

保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、生息・生育空間のつながりや適切な配置を考慮した上で、これらを有機的につないだネットワークのこと。ネットワークの形成により野生生物の生息・生育空間の確保のほか、人と自然との触れ合いの場の提供や地球温暖化対策など、多面的な機能が発揮されることが期待される。

生物多様性基本法 (P1,2)

生物多様性の保全と持続可能な利用に関する施策を総合的・計画的に推進することで、豊かな生物多様性を保全し、その恵みを将来にわたり享受できる自然と共生する社会を実現することを目的としており、日本の生物多様性施策を進める上での基本的な考え方を示した法律。

生物多様性国家戦略 (P1,2,13)

生物多様性条約及び生物多様性基本法に基づく、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国の基本的な計画。政府は、平成 7 年に最初の生物多様性国家戦略を策定し、これまでに 4 度の見直しを実施。

生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10)(はじめに, P1,4,60)

生物多様性条約の締約国が集まる最高意思決定機関であり、2年に一度開催されている。その第10回の会議が、2010年10月に愛知県名古屋市で開催された。自然と共生する世界の実現をめざし、生物多様性の保全に取り組む愛知目標や、遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)に関する名古屋議定書が採択された。

生物の多様性に関する条約(生物多様性条約)(P1)

1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)において、生物の多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を目的として採択された条約。

た行

地球温暖化(P1,6,16,18,40,41,45,63,64,67,68,69,70,72,74,76,90)

人間の活動が活発になるにつれて二酸化炭素などの「温室効果ガス」が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上がり始めている現象。

Team OSAKA ネットワーク(P69)

コラム 27 参照(P69)

沖積平野(P21)

河川の堆積作用で形成される平野。

適応策(P1,64)

地球温暖化対策における適応策とは、気候変動により生じる、もしくはすでに生じている避けることのできない影響に対して、自然や社会を変えることで被害を回避、軽減する取組みのこと。

特定外来生物(P51,75,112)

コラム 17 参照(P51)

な行

なにわの伝統野菜(P31,58,59)

コラム 21 参照(P59)

二国間クレジット制度(JCM)(P69)

コラム 27 参照(P69)

二次林(P21)

自然林が伐採された後または焼失した後に自然に生えてきた樹林のこと。自然林と二次林を総称して天然林と呼ぶこともある。

は行

バイオマス (P67)

再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。廃棄物系バイオマスとしては、廃棄される紙、家畜排せつ物、食品廃棄物、建設発生木材、黒液、下水汚泥などがある。主な活用方法としては、農業分野における飼肥料としての利用や汚泥のレンガ原料としての利用があるほか、燃焼させ発電しり、アルコール発酵、メタン発酵などによる燃料化などがある。

パリ協定 (P1)

2015年12月にパリで開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議で、2020年以降の温暖化対策の国際枠組みとして採択されたもので、発展途上国を含む全ての参加国・地域が地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減に取り組むことを約束した枠組み。産業革命前からの世界の平均気温の上昇を2未満(努力目標1.5)に抑え、21世紀後半には温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを目標としている。

ビオトープ (P37,38,55)

bio(命)とtopos(場所)というギリシャ語からの造語で、生き物が生息する空間を意味するもの。

ヒートアイランド現象 (P18,40,64)

都市部でのエネルギー消費に伴う排熱の増加や緑地の減少、高層ビルなどによる通風の障害、道路がアスファルトやコンクリートで固められているために、地表面からの水分蒸発が少なくなることなどによって起こる、都市部の気温が郊外と比較して高くなる現象。都市部では気温の上昇により冷房需要が増え、その排熱でますます気温が高くなる悪循環が起きる。

BOD (P65)

Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)の略。水中の有機物などが微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量で、水質汚濁を測る代表的な指標。この数値が大きいほど水中の汚濁物質の量が多いことを示している。

富栄養化 (P10)

海、湖沼、河川などの水域が窒素、リンなどの栄養塩類の供給を受けて、生物生産活動が極めて活発な富栄養状態に移り変わっていく現象。

保全配慮地区 (P49)

都市緑地法第4条第2項に基づき定められた「緑地保全地域及び特別緑地保全地区以外の区域であって重点的に緑地の保全に配慮を加えるべき地区」。

や行

野生生物種 (P1,2)

家畜やペットなど以外の自然に生息する動植物のこと。

淀川ワンド群（はじめに，P17,21,27,48,98,99,104）

淀川の本流に沿って並ぶ池のような水域はワンドと呼ばれ、明治から昭和にかけて河岸から川の中心部に向けて石を積んだ工作物によって形成されたもので、水生生物の貴重な生息地となっている。ワンド群とは、複数のワンドが連続しているもので、特に生物多様性が高い。かつては淀川全域に 500 を超えるワンドが存在していたが、1970 年代の河川改修により、そのほとんどが消失した。現在、いくつかのワンド群が残存している。

ら行

緑化重点地区（P52）

都市緑地法第 4 条第 2 項の中で、緑の基本計画に定めることができるとされている「重点的に緑化の推進に配慮を加えるべき地区」。



大阪市生物多様性戦略

生きもん ええもん うまいもん 賑やかなまち大阪

平成 30 年 3 月

編集発行 / 大阪市環境局環境施策部環境施策課

〒545-8550

大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-5-1 あべのルシアス 13 階

電話 06-6630-3262 FAX 06-6630-3580